

黒田精工株式会社

(証券コード： 7726)

2026年3月期 決算補足説明資料

【 目次 】

1. 2026年3月期 連結決算概要
2. 2027年3月期 通期連結業績予想・配当予想

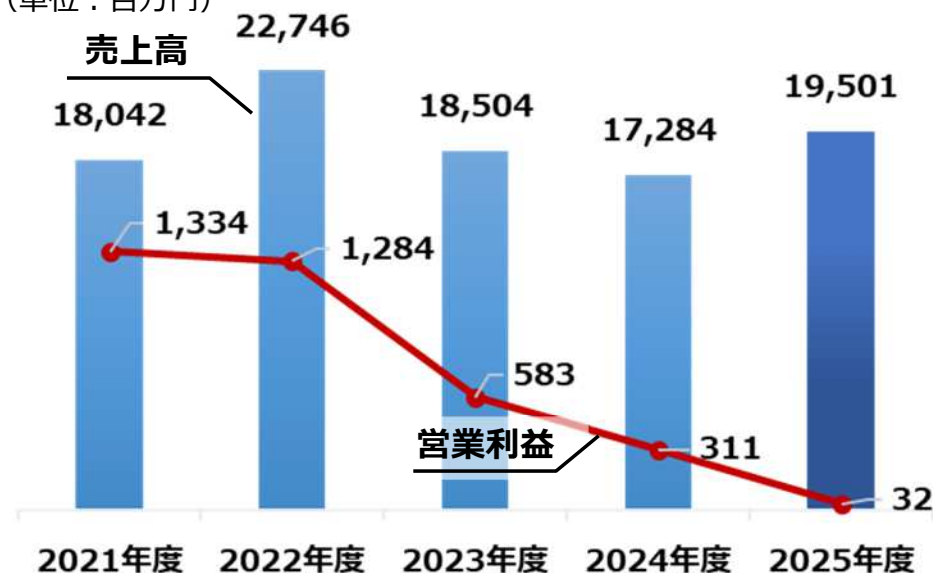
2026年5月14日

1. 2026年3月期 連結決算概要

2025年度 連結決算概要

(単位：百万円)	前年同期 (2025年3月期)	業績予想 (25年11月13日付)	2025年度 (2026年3月期)	増減 (前年同期比)	増減 (予想比)
受注高	18,239	-	20,749	+2,510	-
売上高	17,284	18,800	19,501	+2,217	+701
営業利益	311	180	32	△278	△148
経常利益	419	40	11	△408	△29
親会社株主に帰属する 当期純利益	172	130	△96	△269	△226

(単位：百万円)

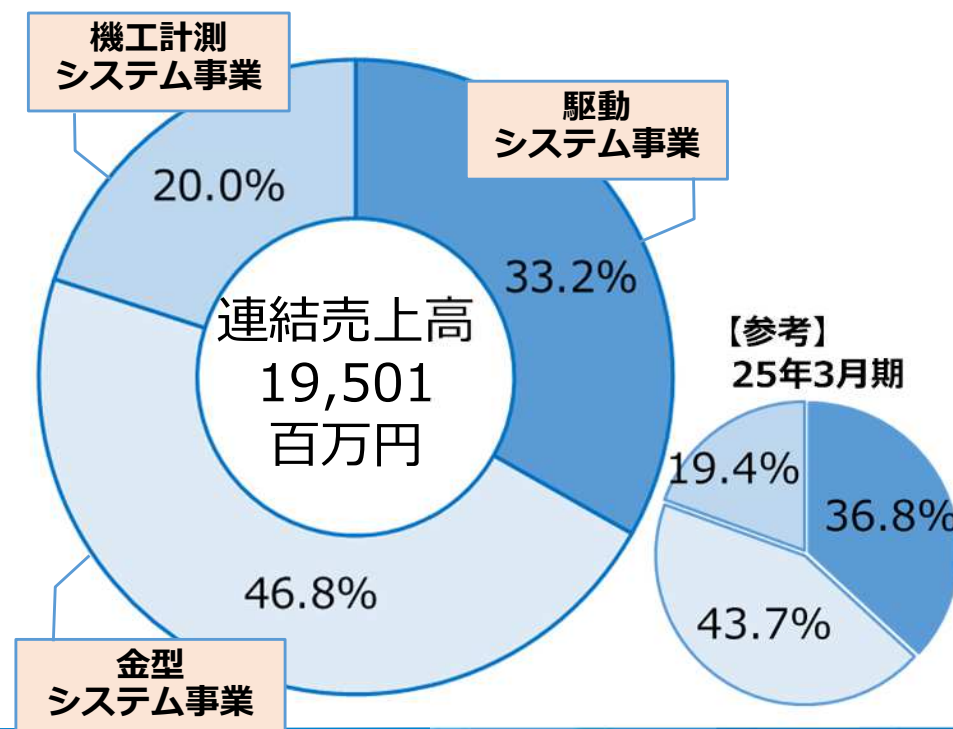


- ◆ 受注高は、世界的EVシフトの減速の影響を受けた一方で、金型システムにおける新プロジェクト関連設備に加え、昨年末以来駆動システム事業の受注が急回復したことにより対前年増加となった。
- ◆ 売上高については、中国のレアアース（希土類）磁石の輸出規制によりモーターコアの生産への影響があったものの、金型システムにおける新プロジェクト関連設備及び工作機械部門の売上が増加したこと等により対前年増収。
- ◆ 品種構成差による利益率悪化や減価償却費の増大に加え、ドイツ子会社の赤字が拡大したことで減益。加えてドイツの構造改革費用等の特損を計上したことで純利益は赤字となった。

セグメント別概要

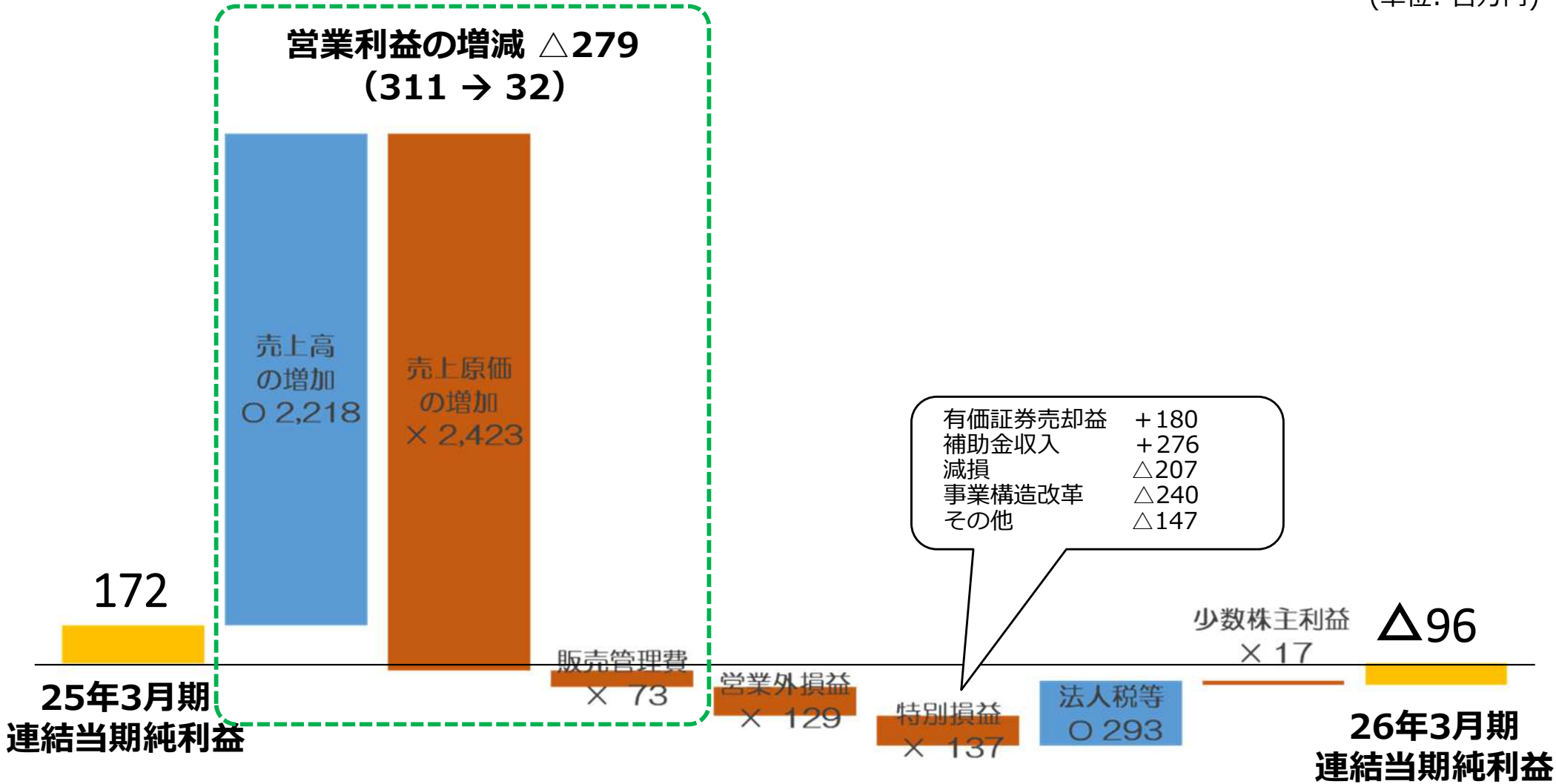
単位：百万円	受注高 (前年同期比増減)	売上高 (前年同期比増減)	営業損益 (前年同期比増減)
駆動システム事業	7,765 (+1,425)	6,480 (+108)	△186 (△61)
金型システム事業	8,855 (+396)	9,139 (+1,572)	49 (△530)
機工計測システム事業	4,152 (+695)	3,905 (+543)	176 (+279)

- ◆ 駆動：半導体製造装置市場向け等の受注が昨年末以来急回復したことにより受注高は対前年増加大幅増。売上高・損益面では単体が増収・増益となったものの、欧米子会社の減収・減益の影響で、売上は前年並み、損益は減益に。
- ◆ 金型：世界的なEVシフト減速の影響を受けたものの、新プロジェクト関連設備等の受注により受注高は対前年増。売上は、中国のレアアース（希土類）磁石の輸出規制によりモーターコア販売が減少した一方で、前述の設備販売により増収。利益面においては、利益率の高い商品が減り、利益率の低い設備売上増えた影響で大幅減益となった。
- ◆ 機工計測：受注高は精機商品の大口受注等により増加。売上高も工作機械を中心にシステム部門の売上が増加。損益面では、増収効果とシステム部門の利益率の改善等により、黒字に転換した。



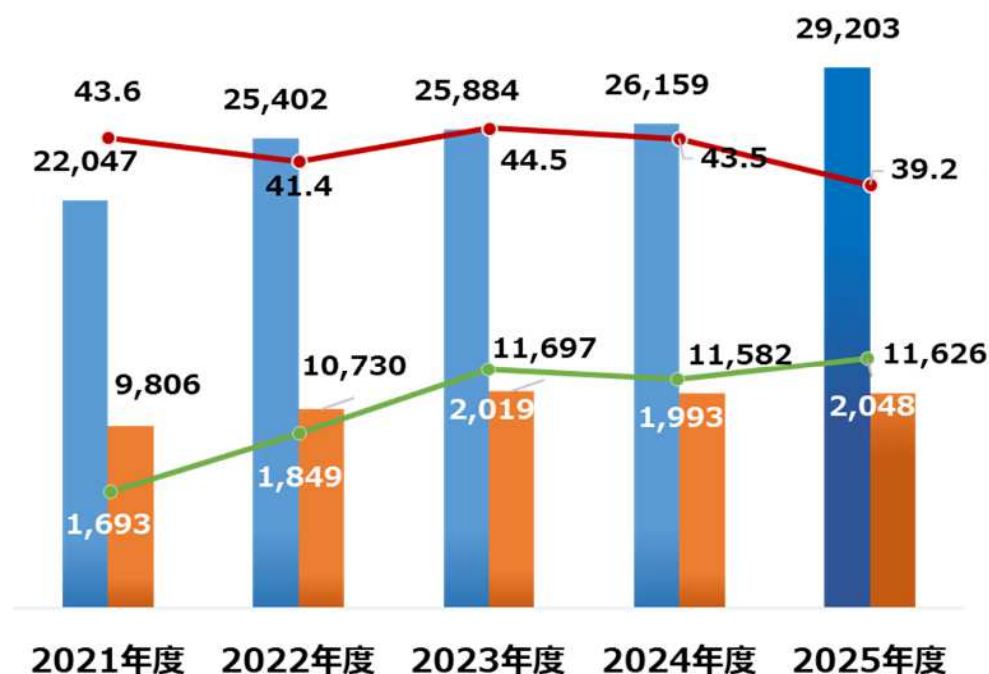
前年同期比 連結当期純利益の変動要因

(単位: 百万円)



連結貸借対照表

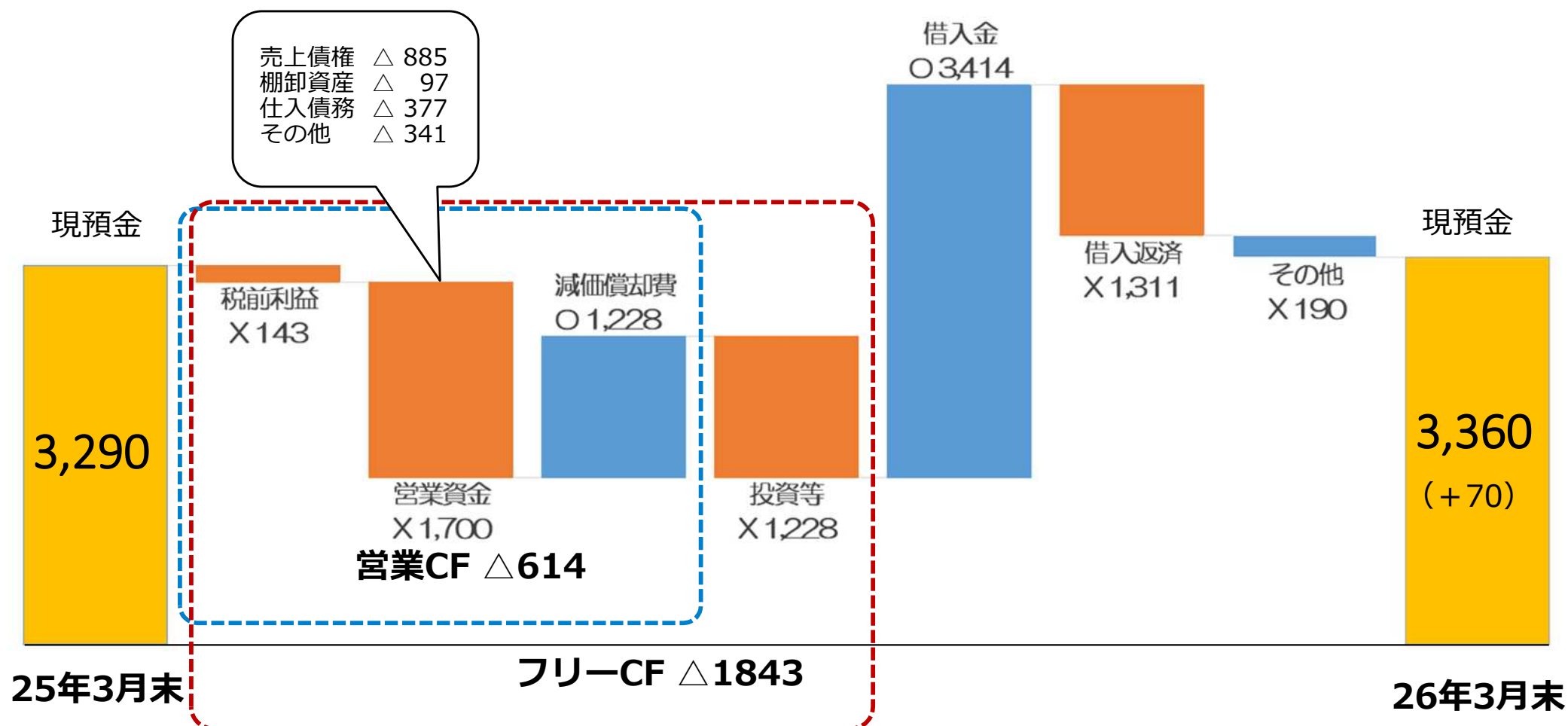
	2024年度 (2025年3月期)	2025年度 (2026年3月期)	増減
総資産 (百万円)	26,159	29,203	+ 3,043
純資産 (百万円)	11,582	11,626	+44
負債合計額 (百万円)	14,577	17,576	+ 2,999
自己資本比率	43.5%	39.2%	△4.3%
1株あたり純資産 (BPS) (円)	1,993	2,048	+55



- ◆ 総資産：前年度末比 + 3,043百万円の増加
 → 流動資産 +1,469百万円 (売掛金、原材料等の増加)
 固定資産 +1,574百万円 (有形固定資産の増加)
- ◆ 純資産：前年度末比 + 44百万円の増加
 → その他の包括利益累計額 + 446百万円
 (その他有価証券評価差額金等の増加)
- ◆ 負債合計額：前年度末比 + 2,999百万円の増加
 → 流動負債 + 1,065百万円 (短期借入金等の増加)
 固定負債 + 1,934百万円
 (長期借入金,リース債務等の増加)
- ◆ 自己資本比率：39.2% 前年度末比 △4.3%

前年同期比 連結キャッシュフローの変動要因

(単位: 百万円)



2. 2027年3月期 通期連結業績予想・配当予想

2026年度 通期連結業績/配当予想

注：単位記載の無い項目は百万円単位	2025年度 (2026年3月期)	2026年度 (2027年3月期)	前期比増減率
売上高	19,501	25,800	+ 32.3%
営業利益	31	770	—
経常利益	11	550	—
親会社株主に帰属する当期純利益	△96	330	—
1株あたり年間配当金（予定額）	20円00銭	20円00銭	± 0円
配当性向（%）	— %	34.3%	—

- ◆ 26年度の連結業績は売上高 25,800百万円、営業利益 770百万円、経常利益 550百万円、親会社株主に帰属する当期純利益330百万円を見込む。
- ◆ 駆動システム事業の受注が昨年末以来急回復しており、業績の好転が期待される。また、金型システム事業において新規プロジェクトが下期以降から業績に寄与する見込み。機構・計測システム事業も事業効率化により、堅調な収益が継続すると見込まれることから、25年度からの大幅な増収・増益を見込む。
- ◆ 1株あたり年間配当は 20円/株（中間5円/株、期末15円/株）を想定。

セグメント	見通し、計画
駆動システム事業	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 主要顧客である半導体製造装置市場を中心に昨年末から受注が急増。現在の状況は26年度中も継続が見込まれるため、生産キャパシティの逼迫に備えて、増産に向けた対策を実行中。 ◆ 足元の需要は増えているものの、今後も需要の増減が見込まれるため、継続して新規分野の開拓や、生産効率化に向けた取り組みを行い、需要の増減に左右されない体質の構築を目指す。
金型システム事業	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 25年度に大きな問題となった中国レアアース磁石の供給問題に関しては、輸入許可の取得や代替調達先の確保等の対応を行っているが、イランでの紛争による一部原料の調達問題も発生しており、26年度も安定生産が大きな課題となる。 ◆ 26年度はこれまでの大型投資を活用したモーターコアの新規プロジェクトが年後半から量産開始。関係者一丸となって円滑な生産立ち上げを実現する。 ◆ 金型事業では、EVの最大市場である中国市場でリードタイム短縮の要求が大きく、中国市場に対応した生産体制の構築を検討する。また、パーメンジュール等新規材料を使ったモーターコアの拡販に向け、パートナー戦略を含めて対応を進める。
機工計測システム事業	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 工作機械、要素機器ともに市場は緩やかな回復が見られるものの、国内市場の成長は限定的であり、海外が成長の中心となる見込み。 ◆ その中で、当社は省エネルギーの工作機械の拡販を図るとともに、商品の絞り込みや、事業の効率化によって利益率の改善を進め、着実に利益を生む体制を構築する。

- 当資料は、投資家の皆さまに黒田精工株式会社への理解を深めて頂く事を目的として、経営や財務に関する情報を提供するものです。
- 当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。
- 当資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。実際に投資を行う際は、本資料の情報に全面的に依拠することなく、ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

【お問い合わせ先】

黒田精工株式会社 経営企画室 IR担当

TEL：044-555-3800

ホームページ：<https://kurodaprecision.com/jp/>